

令和元年度 医学部医学科学士学位記伝達式告辞

96期の105名の皆さん、卒業おめでとうございます。医学科の課程を修了し、これから医師あるいは研究者として活躍される皆さんの輝かしい門出を、本学教授陣を含め医学部教職員を代表して心からお祝い申し上げます。また、第114回医師国家試験において、皆さん全員の合格は本学医学部開闢以来の快挙といえるかもしれません。敬意を表するとともに重ねてお祝い申し上げます。

COVID-19の感染拡大により、学士学位記伝達式を中止せざるを得なかったことについては、これから全国に向け医療人として旅立つ皆さんの健康と安全を最優先に考えた措置とはいえ、誠に残念であり、卒業生の皆さんならびに保護者の皆様のご理解をお願いする次第です。

皆さんの旅立ちにあたり、皆さんが北大で何を学んだのか、これから医学とどのように向き合っていくべきなのかについて述べてみたいと思います。

北海道大学が掲げている教育理念のひとつに「全人教育」があります。全人とは「知識・感情・志（こころざし）の調和のとれた人」と理解されています。北海道大学は、皆さんもご存知のように札幌農学校をその起源としています。1876年、札幌農学校の初代教頭ウィリアム・スミス・クラーク博士は、札幌農学校の開校祝辞で、「長年の間、東洋の国々を暗雲のごとく包んで来た因習と身分制度の暴政からの解放は、教育を受けようとする全ての学生達の胸に高邁なる大志を抱かさずにはおかない。」と述べ、明治維新の士農工商の身分制度の廃止と封建制度からの解放により、人々が平等と自由を獲得したことは実に素晴らしいことであり、学生達の胸に大きな志を持たせるものであることを述べました。クラーク博士はまた、多くの細かな校則を排して、「紳士たれ」の一言を校則とし、学生達の自律心、独立心を目覚めさせ、個の確立を促しました。自律心、独立心を持った個の確立を目指す自由な人間教育、これがまさに北大の全人教育の礎となったのです。

皆さんは、得た知識とともに、この北大の学び舎で涵養してきた感情・志の調和をもとに「医学・医療」の活動を通じて人類社会に貢献する資格を本日得たわけです。資格を得たということは、同時に責任を負ったということでもあります。一つ言えることは、医学・医療のように進歩が激しい領域に身を置く者は絶えず学ばなければならないということです。それによって、医師・研究者としての社会的責任の一端を果たすことができるのです。

そして「全人」となるべく、なによりも大切なことは、医学に対する謙虚さと誠実さであります。学士学位に相応したプライドと共に、謙虚で誠実であることを忘れてはなりません。

では、これから皆さんはどのように医学の道を歩むべきなのでしょう。

国民から期待されている皆さんの使命は、優れた臨床能力を持つとともに、

研究を通じて医学・医療の進歩に貢献できる指導的な医師となることです。皆さんには、このような国民から負託された大きな使命があることを深く心に刻んでください。現在、世界最高レベルにある日本の医療は、時代を超えて脈々とこの使命を果たしてきた多くの先輩達によって、築かれてきたものです。皆さんはこれから、この使命を果たしている多くの先輩に出会い、刺激・指導を受け、そして立派な医師に育っていくことでしょう。今度は皆さんの番です。高い志を持って、皆さんがこの使命を果たしていくことになるのです。

では、具体的にどのようにすればよいのでしょうか。そこに王道はありません。医学・医療の新しい知識・技術をたゆまなく取り入れていくことが、優れた専門医、研究者になるためには不可欠であることは間違いありません。しかし、これにさらに適確な批判力が必要であります。この批判力を養うためには、キャリアの一時期に研究の場に身を置くことがきわめて有効です。研究医を目指している方はもちろんですが、医療の第一線で医師として活躍したいと考えている方も、ぜひ大学院博士課程に進学し、適確な批判力を涵養して欲しいと思います。

現代社会は複雑化し、医師を取り巻く社会状況にも厳しいものがありますが、全人として医師の責務を誠実に果たしていけば、皆さんは人々から尊敬と信頼を得ることができるでしょう。医学・医療がいかに進歩しても変わらない真実であります。皆さんには、このことを忘れることなく、繰り返しになりますが、常に誠実で謙虚な気持ちで患者さんに接していただきたいと思います。

北海道大学医学部は昨年、創立100周年の年を迎えました。96期生の皆さん105名を含め、10,098名の方々が巣立ち、同窓生の活躍の場は日本全国のみならず海外に広がっています。北海道大学医学部は常に、皆さんと共にあります。卒業は大学との別れではなく、新たな協働、すなわち”cooperation”の始まりです。どうか、皆さんには、これからも、創立100周年を迎えた本学の成長・発展に積極的に関わって下さるよう、心からお願い申し上げます。

最後に、札幌農学校の初代教頭であったクラーク博士が唱えた"lofty ambition"（高邁なる大志）という言葉は世紀を超えて北海道大学を揺るぎなく支えてきた理念であります。この言葉を大切に、大きな夢と高い理想を持ち、自らの持てる能力を最大限に発揮することができる「全人」として、皆さんがそれぞれの分野で元気に活躍されることを祈念して、私の告辞とします。

令和2年3月25日

北海道大学医学部長 吉岡充弘